

トルコの核果類事情(サクランボ)

米国農務省GAINレポート 2023年8月18日

これは米国農務省海外農業局アンカラ事務所(トルコ)が作成した「核果類年次報告書」のサクランボ関係部分を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

トルコは従来から世界の主要サクランボ生産国の一つであり、しばしば輸出国トップ4に含まれる。甘果オウトウは主に中央アナトリア、エーゲ海、マルマラ、地中海の各地方で栽培されている。コンヤ、イズミル、マニサ、デニズリの各県は、これらの地方の中でトップのサクランボ産地である。サクランボの販売年度(以下「年度」)は4月下旬に始まる。当事務所は、2023/24年度シーズンのサクランボの総生産量が前年より多い90万トンで、そのうち72万トンが甘果オウトウ、18万トンが酸果オウトウであると予測している。この増加は、良好な天候と生育条件によるものである。

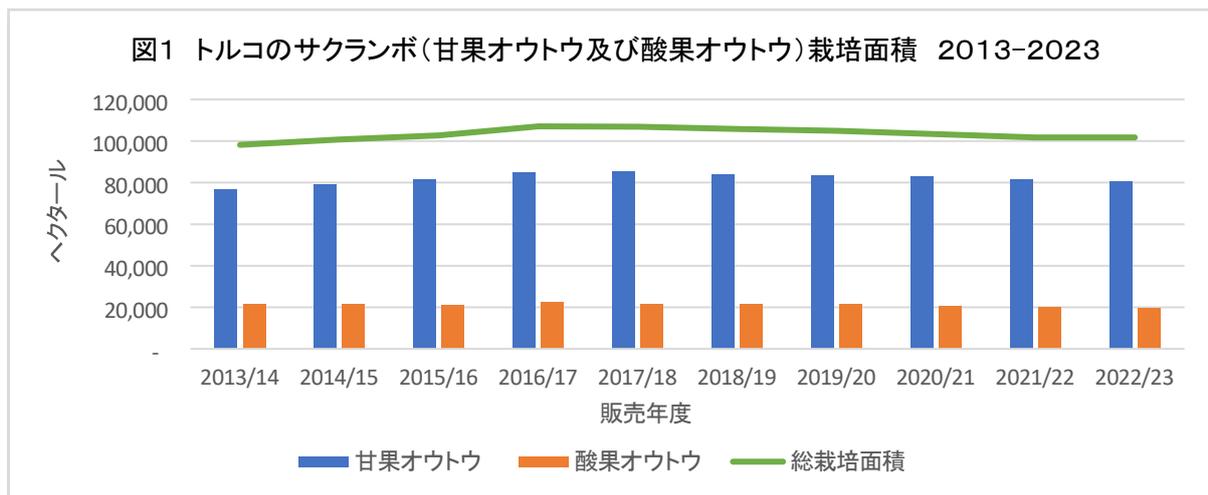
トルコは世界最大の核果類(モモ等を含む)輸出国の1つであり、年間25万トン以上を輸出しており、その大部分はEUとロシアに出荷されている。近年、トルコの輸出業者は、極東、特に韓国でも核果類(サクランボ等)の販売機会を探っている。

<サクランボ(甘果オウトウ及び酸果オウトウ)>

栽培面積

トルコは世界有数の甘果オウトウ生産国である。近年、輸出市場からの需要の増加を享受しているトルコの生産者は、新しい果樹園に投資し、販売に適さない品種を伐根し、より競争力のある品種に改植した。果汁の製造にも新たな投資が行われている。

トルコの甘果オウトウ栽培面積は10年前には増加傾向にあったが、近年はわずかに減少している(図1)。当事務所は、2023/24年度の甘果オウトウの栽培面積を約8万2千ヘクタールと推定し、酸果オウトウの栽培面積は2万ヘクタールにとどまると予想する。2023/24年度のサクランボの総栽培面積は2022/2023年度よりわずかに少ない約10万ヘクタールと推計する(原文のまま。文末の生産需給統計表と一致しません)。全体として、サクランボの総栽培面積は、最高であった2017/18年度からわずかに減少している(図1)。

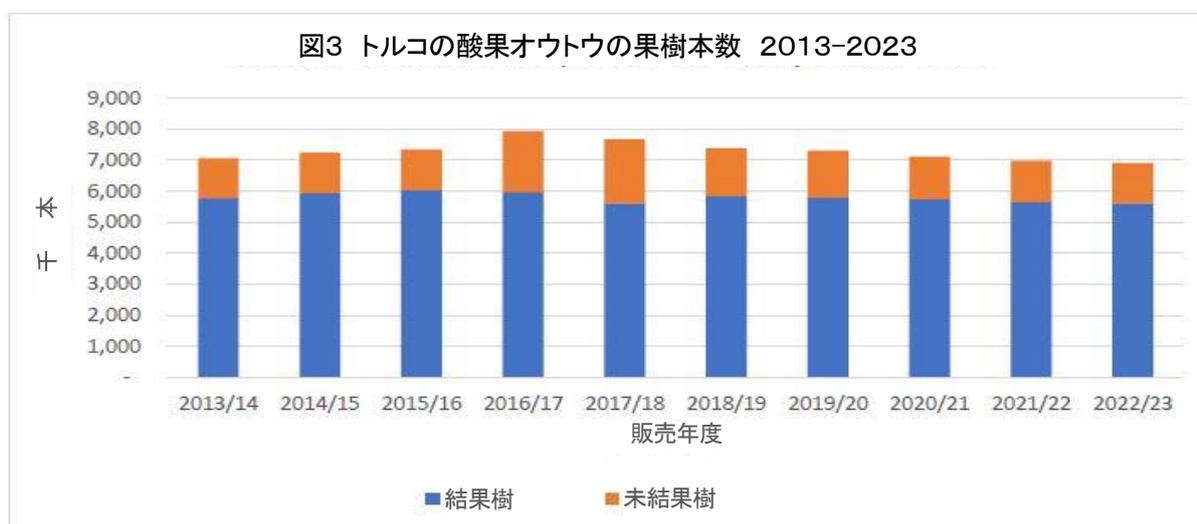


出典: トルコ統計局 2023年

過去10年間で、科学者たちは元々のナポレオン品種の収量と品質を向上させようとしてきた。スレイマンデミレル大学のある科学者は、3つの高収量のトルコ型ナポレオン品種を開発した([ニュースリンク](#))。これらの改良に続いて、生産者らは古いトルコ品種のナポレオン甘果オウトウの果樹を改良品種に置き換えており、栽培面積が減少しているのに対し、生産量は増加している(図1、8)。トルコの公式データによると、2022年の国内のサクランボの推定果樹本数は合計約2,780万本であった。甘果オウトウの結果樹総本数は、10年間で1,800万本から2,200万本に増加した。酸果オウトウの結果樹総本数は横ばいである(図2、3)。



出典: トルコ統計局 2023年



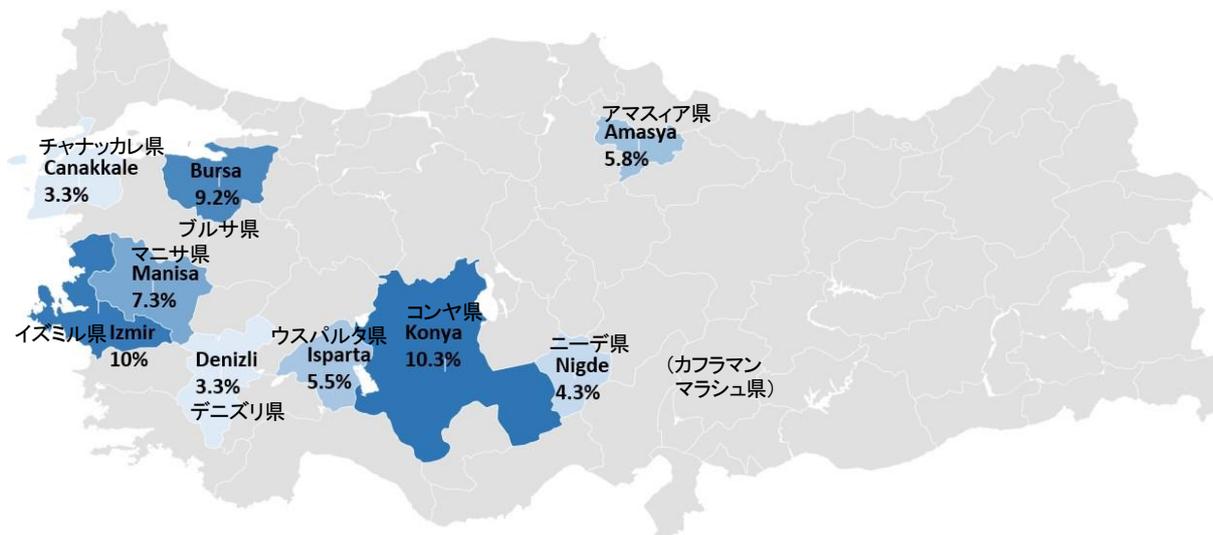
出典: トルコ統計局 2023年

サクランボの起源がアナトリア地方北部であるため、トルコには多くの貴重なサクランボの遺伝資源がある。トルコでは100種類以上の甘果オウトウが生産されている。トルコのナポレオン品種としても知られる0900 Ziraat品種は、トルコで開発され、輸出市場で要求される高い品質特性を満たしているため、最も人気がある。その果肉はピンクと赤で、ハート形の果実は明るく、しっかりしていて、ジューシーで、非常に大きく、輸送に適しており、貯蔵寿命が長い。しかし、生産者は、より高品質の果実、遅い収穫時期(シーズンの後半に価格が上がるため)、及びより高い収量を求めて、スイートハート(Sweetheart)、セレステ(Celeste)、アーリーローリー(Early Lory)、コルディア(Kordia)、レジーナ(Regina)、サム(Sam)、サンバースト(Sunburst)等の新しいサクランボ品種を試し始めている。

生産

甘果オウトウは、主にトルコの中央アナトリア、エーゲ海、マルマラ及び地中海の各地方で栽培されている。コンヤ(10.3%)、イズミル(10%)、ブルサ(9.2%)、マニサ(7.3%)、アマスィヤ(5.8%)の各県は、これらの地域の中で最大のサクランボ産地である(図7)。トルコでのサクランボの収穫は5月下旬に始まり、8月上旬まで続く。サクランボの出荷シーズンの正確な時期は地域や気象条件によって異なるが、一般的に、トルコのサクランボの収穫のピークは6月である。サクランボの収穫は5月下旬にイズミル県のエーゲ海沿岸で始まり、6月または7月にさらに内陸のアフィオン、ブルドゥル、サリリ、コンヤの各地域で始まる。カフラマンマラシュ県では8月に収穫される。

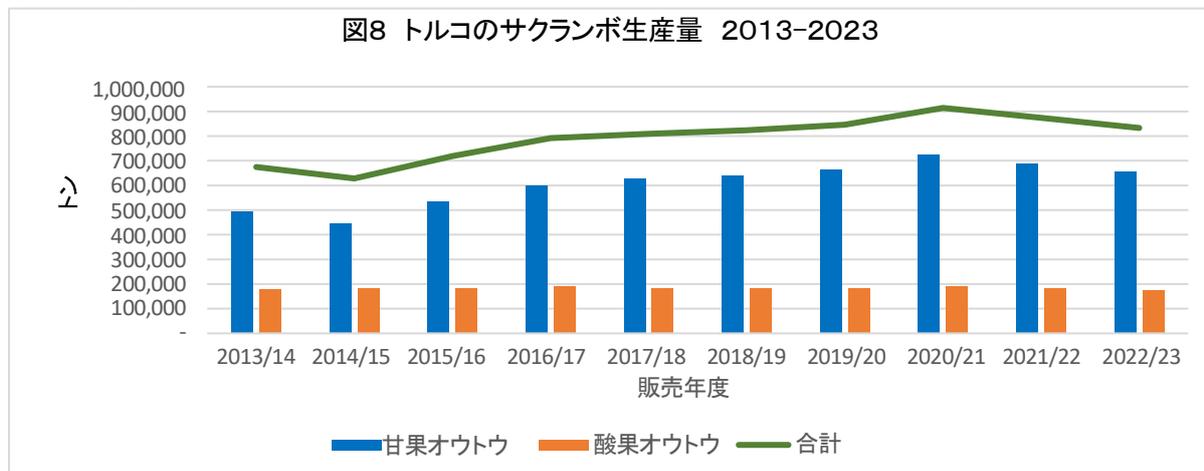
図7 トルコの主要サクランボ産地



当事務所は、良好な天候と生育条件を考慮し、2023/24年度のサクランボの総生産量を90万トン、そのうち71万8千トンが甘果オウトウ、18万2千トンが酸果オウトウであると予測している。トルコ統計局 (TurkStat) の当初の年間見通し (2023年5月時点) は、2023/24年度の甘果オウトウの生産量を、2022/23年度の推計値65万6,041トンに対して18.6%増の77万8,065トンとしている。主要産地では総じて収穫量を増やすのに十分な雨が降り、今年は霜害がなかった。生産者にとって今シーズンの唯一の課題は、春の気温の上昇が遅く、収穫が遅れたことであった。酸果オウトウの生産量は、近年の水準 (過去10年間の平均は約18万3千トン) と同程度にとどまった。

深刻な食料インフレがトルコ経済を揺るがしたにもかかわらず、収穫量の増加により、今年のトルコリラ (TL) で表した甘果オウトウの価格は横ばいである。本報告書の執筆時点では、甘果オウトウの小売価格は、50~90TL (1.85~3.33米ドル) /kgの範囲である。酸果オウトウの小売価格は、約70~90TL (2.59~3.33米ドル) /kgである。現在の米ドルの為替レートが昨年この時期よりも50%高いため、甘果オウトウ及び酸果オウトウの米ドル表示の価格は昨年よりも低くなっている。

投入資材の価格は、外貨に対するトルコ通貨の弱さとトルコ国内のハイパーインフレにより急激に上昇している。2022年3月から2023年3月の間に、肥料の価格は約20%、農薬の価格は約35%、エネルギーの価格は約11.5%上昇した。2023年3月から2023年8月の間の為替レートの急激な上昇により、肥料価格はさらに42%上昇し、燃料価格は約50%上昇した。生産者は、急速に上昇する投入資材価格に追いつくのに苦労している。



出典: トルコ統計局 2023年

近年の強い輸出需要が、サクランボ生産の増加の原動力となっている。トルコは、新しい栽培品種、台木、誘引システム及び栽培技術を使用した近代的で高密度の果樹園の開発等、伝統的なサクランボ生産から現代的なサクランボ生産にゆっくりと移行している。しかし、ほとんどのサクランボ生産は、家族経営の農場が運営する農地で、主に伝統的な方法で行われている。季節労働者と家族経営農場の比較的安価な労働力が、安定的で安価な労働力供給という利点を提供している。

輸出市場の成長により、トルコの甘果オウトウの生産量は2013/14年度から2022/23年度の間に24%増加した(図8)。輸出市場の仕様に合うより高品質なサクランボの生産の増加は、国内市場向けのサクランボの品質の向上にも役立った。一方、酸果オウトウは主にトルコの果汁・ジャム産業で使用され、その生産量は横ばいである。

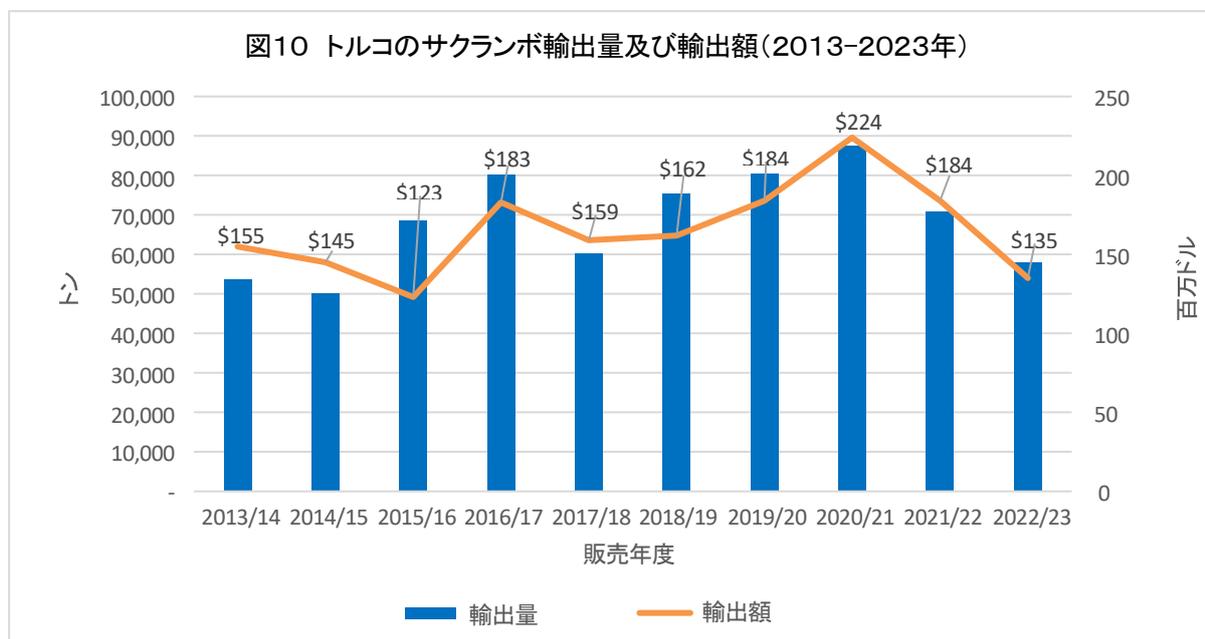
消費

トルコでは、100品種以上のサクランボがさまざまな形で消費されている。国内では、トルコで生産される甘果オウトウの半分以上が生鮮で消費される。すべてのサクランボ生産の約20%は、加工部門で缶詰製品、マーマレード、冷凍果実、果汁の製造に使用される。大部分の加工品は酸果オウトウから製造される。2023/24年度の国内消費量は、前年と比較して4万8,100トン多い約82万3千トンと推定される。

貿易

トルコは年間25万トン以上の核果類を輸出しており、その大部分はEUとロシアに出荷されている。トルコのほかには、チリ、米国、香港が世界の主要輸出国である。

トルコの輸出業者は、南アジアと東アジアでの核果類の輸出機会の拡大を模索し続けている。トルコの生鮮サクランボの輸出量は、生産量の減少により過去2年減少した(図10)。しかし、当事務所は2023/24年度のトルコの生鮮サクランボの輸出量を、生産量の増加とEU諸国からの安定した需要により、2022/23年度の輸出量5万8千トンより約33%多い7万7千トンと推定する。



出典: Trade Data Monitor, LLC 2023

また、トルコは近年、ロシアとEUの市場への輸出を増やしている。2022/23年度のトルコ産サクランボの主な輸出先は、ロシア(2万5,169トン)、ドイツ(1万5,343トン)、イラク(7,813トン)である(表1)。

輸出先	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23
ドイツ	23,651	27,180	25,894	24,558	15,343
ロシア	24,019	25,414	29,788	23,117	25,169
イラク	13,171	10,281	7,243	7,128	7,813
オランダ	1,298	2,546	2,141	2,241	1,116
オーストリア	785	1,961	3,877	2,195	407
イタリア	1,583	1,166	2,754	1,153	20
スウェーデン	1,289	1,151	1,363	1,311	833
ノルウェー	1,887	1,392	1,522	1,519	1,157
デンマーク	1,380	1,243	1238	1,030	1,013
英国	1,087	686	1,373	832	122
世界	75,377	80,542	87,511	70,948	57,915

出典: Trade Data Monitor, LLC 2023

マーケティング

近年、甘果オウトウの生産量と販売量がかなり増加した。トルコでは、マーケティングに精通した企業の数が増加し、冷蔵倉庫や追加の梱包施設への投資が増えている。生産者は、輸出市場で求められる甘果オウトウの品種を生産できるように訓練される。輸出市場や規制を知っている市場志向の商人も増えている。トルコ政府は、輸出市場向けの高品質な甘果オウトウを生産するために、古い甘果オウトウ果樹園を改植する生産者に補助金を支給している。甘果オウトウに関しては、国内消費と嗜好は長年にわたって同様の水準にとどまっているが、甘果オウトウの輸出は適切なマーケティング戦略により増加を続けている。

政策

安定した輸出需要と政府の支援により、トルコの実産者は核果類の新しい果樹園に投資することができた。農林省の農業者登録制度に登録した生産者には支払いがある。

農林省は、2023年に果樹園を設置するために村に戻る農民に対する補助プログラムを発表した。プログラムによると、資格を満たす生産者は、3万TL(1,667米ドル)の補助金と10万TL(5,556米ドル)の融資を得ることができる。詳細については、農林省のウェブサイト参照願いたい。

同省はまた、引き続き、燃料と肥料、認定された標準苗木、有機農業、及びサンプル分析について支援を行っている。このプログラムは、より高品質の果樹が確実に植えられるようにするため、政府認定の矮性苗木を購入する生産者の投資を支援する。トルコはまた、電子商取引、見本市への参加、市場調査の実施などへの補助金の提供等さまざまな輸出プログラムを通じて果汁輸出業者に助成金を支給している。詳細については、貿易省のウェブサイトに掲載されている。

トルコのサクランボ生産需給統計

甘果オウトウ・酸果オウトウ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	101,700	101,691	101,000	99,168	0	102,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	27,800	27,809	28,000	27,811	0	28,200
未結果樹本数(千本)	6,700	6,703	6,500	6,800	0	6,700
果樹総本数(千本)	34,500	34,512	34,500	34,611	0	34,900
商業的生産量(トン)	873,591	873,591	980,000	832,811	0	900,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	873,591	873,591	980,000	832,811	0	900,000
輸入量(トン)	40	0	50	0	0	0
総供給量(トン)	873,631	873,591	980,050	832,811	0	900,000
国内消費量(トン)	802,731	802,645	900,050	774,896	0	823,000
輸出量(トン)	70,900	70,946	80,000	57,915	0	77,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	873,631	873,591	980,050	832,811	0	900,000